

# 六甲高山植物園



## ビルズクラウド尼崎 builds crowd AMAGASAKI

栗真由美 Mayumi KURI

**本**年8月に行われた「阪神なんば線ミーツ・アート in あまがさき Produced by 六甲ミーツ・アート 芸術散歩」において本作品は尼崎の昼なお暗く古い商店街に展示した作品です。

家々の明かりは私たちにぬくもりや郷愁を感じさせますが、作者は尼崎の商店街取材してたくさんのランタンを作り本作品としました。ランタンになっているのはすべて実在の商店や建物です。美しく仄かな町の記憶が遠く六甲山までやってきたわけです。自然の中で感じる商店街、この作品をご覧いただいた記憶とともにつぎは尼崎の町を訪ねてみてください。



## in the mist

大野公士 Kouji OHNO

**生**命科学、自然現象、哲学の視点を織り交ぜながら発表を続けている作者が滞在制作した作品です。六甲山は霧が非常に多く発生することから、この作品は大気光学現象のブロッケンを大きくテーマとしています。光輪とも呼ばれるこの現象は稀に高山などで見られ、人物などの影が霧や雲に投影されるときに、その中央の影の周りが虹のように光るものです。本作品では中央に表面を残して薄くくり抜かれた人型の木彫があり、その周囲には直径僅か 0.2mm の絹糸が張り巡らされています。二進法により定められた手順で張られた絹糸は、かつてその輸出が神戸の重要な産業であったことから選ばれた素材です。



## Glow with Night Garden Project in Rokko 提灯行列ランドスケープ

Glow with Night Garden Project in Rokko Japanese lantern parade landscape

### 高橋匡太 Kyota TAKAHASHI

**作**者は、光を扱うアーティストです。様々な様式の歴史的建造物を光で彩ったり、光にまつわるワークショップや映像インスタレーションなど、活躍の場は多岐に渡ります。この作品は、「ザ・ナイトミュージアム」の期間限定作品の1つです。ライティングと音楽により彩られた夜の六甲高山植物園の中を、鑑賞者は提灯を持って散策します。無線でLEDの色が変化する提灯の灯りと空間全体の光・音楽は連動しながら変化します。鑑賞者は作品を鑑賞しながら、自らも作品の一部となる参加型の作品です。



## 記憶の庭園

Garden of memory

### 大東真也 Masaya DAITO

**作**者はガラスを素材に立体作品を制作する気鋭のアーティストです。窯の中に多様なガラス類を入れ、窯の中での変化に任せて作品を制作する技法は、一定の作為はあるものの炎と重力に作品を委ねる行為であり、自然を取り込む行為でもあります。本作品は枯山水の概念をガラスで表現しています。屋外での展示はさまざまなリスクを伴いますが、日差しや雨、霧などの天候により作品に多様な表情が生まれるメリットがあります。ガラスを変化させる技法にさらに自然の変化が加わることによって、まったく新しい枯山水が生まれています。



## 今はいるけど、またいなくなる

here now, but later gone again

### 杉谷一考 Kazutaka SUGITANI

**作**者は陶器で、オブジェを作るアーティストです。出来るだけ道具は使わずに、手で直接粘土に触れて作られた作品は、比較的シンプルな形が組み合わせられていて、カラフルながらも抑えた色に仕上げられているのが特徴です。今回の展覧会では六甲高山植物園の植物が展示されているエリアに、植栽されている植物の間を縫うように作品を点在させました。展示場所からインスピレーションを得て制作されたオブジェは何かを強く主張するというよりも、場所にそっと寄り添うような静かな雰囲気をつたえています。



## 『多歌緒からのことづて』

児玉多歌緒伊藤存二人展

### Messages from Takao Kodama

## 伊藤存 Zon ITO

**作** 者が六甲山で展開するのは展覧会の中の展覧会、入れ子構造の展示です。空間を自然木や石などで区切って仮設美術館とも言える会場を構成し、画家の故児玉多歌緒氏のスケッチ帳（芦屋市立美術博物館所蔵）の複製と本展出品者の伊藤存によるドローイングや立体作品で構成する二人展が開催されています。

「児玉の筆致は淡々と均質であり(中略)控え気味な情緒も感じられ、描かれた六甲の風景を児玉のガイドで進んでいくような(後略)」不思議な絵画体験を得ることが出来ると伊藤は述べています。その視点にガイドされるように制作された自身の作品、六甲山を描いた児玉の作品と共に六甲山で展覧されるのも興味深く、展示のあり方としても注目したい意欲的な作品です。



## Sanpolines

## 本多大和 Yamato HONDA

**近** 年、テクノロジーやデバイスの発展によってメディアアートが急速に発展し規模を拡大しています。多様なメディアを通じて多くの人々がそれらのエッセンスに触れ、都市景観を変容させるような大規模なものも広がっていますが、ともするとプロダクト（製品）化する傾向もあるようです。作者の制作する作品も大きくその流れの中にあるものですが、自身でイラストレーションからプログラム、音響効果までを包括的に手がけ、作り手の体温が感じられるのが特徴です。独特な優しさが表現されたインタラクティブな作品です。



## 星の読書・秋（六甲）

### Reading the Stars, Autumn (ROKKO)

## 藤本由紀夫 \*astronavigation Yukio FUJIMOTO \*astronavigation

**本** 展3回目の出展となる作者、今年はアーティストユニットでの展開になりました。作者はサウンドアーティストとして知られ、音を通じて環境をより感じ取る作品を多く展開してきました。その作品は、場を作ることであり鑑賞者に行為を促すものでもありません。

本作品は読書を促すために作られました。読書とは活字を読むことだけを指すのでは無いと作者は考えます。ひとが持っている感性の領域を広げて、観察と想像力を巡らせることはまさしく読書的な行為と言えるのではないのでしょうか。どうぞ椅子に腰掛けて流れる音に耳を傾けながら六甲山での読書をお楽しみください。



# 六甲おろし従軍記

The Battle Of *ROKKO OROSHI*

山口典子 Noriko YAMAGUCHI

パフォーマンスから絵画、立体造形まで作者は技法を横断的に駆使して作品を発表してきました。それら多様な作品に共通するテーマは、社会の中の様々な集団と個（あるいは作者自身）の関係性にあるように思われます。本展で発表したのはターポリン素材に出力された絵画。戦う集団が描かれています。

力強く重厚感と躍動感がともに感じられるのは、この絵画が中世の騎士の戦いを再現する実際の競技をもとに描かれているからでしょう。その集団の中から一人だけこちらを見ている人物は作者自身です。鋭い視線は鑑賞者に何を訴えているのでしょうか。